

ハンガリー政治・経済月報

(2 0 0 4 年 5 月)

平成 1 6 年 6 月
在ハンガリー日本大使館

内 政

1 . ファルカシュ金融監督庁新長官の就任

(1) 1 7 日、国会はファルカシュ・イシュトヴァーン金融監督庁 (P S Z A F) 新長官の就任を賛成 1 9 4 票、棄権 2 票により承認、採択した。野党は本件採択投票を欠席した。

(2) ファルカシュ新長官はメッジェシ首相の旧知の人物であり、2 0 0 2 年 9 月に同首相によりハンガリー輸出入銀行代表取締役・ハンガリー輸出信用保険代表取締役に任命されており、今回も同首相により P S Z A F 新長官候補に推薦された。

(3) 1 8 日、マードル大統領はメッジェシ首相同席の下、ファルカシュ金融監督庁新長官を同職に任命し、同新長官は就任宣誓を行った。

2 . メッジェシ政権任期前半の業績評価

(1) 2 8 日付各紙

(イ) 2 7 日、メッジェシ首相はブダペスト市内ビルバックス・コーヒーハウスにおいて、閣僚同席の下、政権任期前半の業績評価記者会見を行い、(a) 4 年間の政権任期課題の大半について任期前半の 2 年間で着手することが出来た、(b) 厚生部門で改革を実施し、医療衛生部門、及び税制の改革も着手、実行中である、(c) 高速道路網整備を実施し、引き続き建設を進める、(d) 国防軍改革を推進していく旨述べた。

(ロ) 2 7 日、上記記者会見に先立ち、国会でメッジェシ政権任期前半の業績評価に関する討論が行われた。

(a) アーデル青年民主連盟 (第 1 野党・F I D E S Z) 国会議員団長は「メッジェシ政権業績につき一言で述べれば、信用性がない、予測することが出来ない、そして信頼を欠いた政権である。例えば、現政権は 1 0 0 万人の患者への医薬品供給に応えず、病院勤務者の待遇改善を行わず、また農業分野の問題を解決していない」と批判した。

(b) クンツェ自由民主連盟 (第 2 与党・S Z D S Z) 党首・国会議員団長は現政権の業績を評価し、実績として学位取得者の最低賃金上昇、徴兵制度の廃止及び減税政策を挙げた。

(2) 2 2 日付マジャール・ヒールラップ紙 (第 2 与党自由民主連盟・S Z D S Z 寄り)

(イ) メディアーン社 (第 2 与党・S Z D S Z 寄り) 世論調査

マジャール・ヒールラップ紙委託によるメディアーン社本件調査結果として、政権任期半ばにおいて住民の 3 分の 1 がメッジェシ政権業績に満足しており、これは 8 年前のホルン政権、4 年前のオルバーン政権に比べて多い。現政権評価において、E U 加盟が最も好ましい効果があったのに対し、医療厚生事情、エネルギー料金の高

騰が批判要素である。

- 質問事項：あなたの意見では政権は如何なる業績を上げたか。

非常に良い、良い、貧弱、非常に貧弱、わからない

ホルン政権・1996年6月： 0、 20%、55%、21%、 4%

オルバーン政権・2000年6月： 1%、 31%、51%、14%、 3%

メッジェシ政権・2004年6月： 2%、 33%、48%、14%、 3%

(口) 政権評価・通知表内訳：総平均3.4ポイント

(a) チズマディア政治評論家

(b) デブレツェニ政治評論家(元ハンガリー民主フォーラム議員)

(c) ケーリ政治評論家・ペチュニツヒ経済学者夫妻(自由民主連盟寄り)

(d) レンジェル政治評論家・金融調査研究所所長

	(a)	(b)	(c)	(d)	[平均]
メッジェシ首相：	3、	2、	3、	3、	2.8ポイント
キシュ首相府相：	3、	3、	3/4、	4、	3.4ポイント
コヴァーチ外相：	3、	3、	3、	4、	3.3ポイント
ラムベルト内相：	2、	2、	4、	4/5、	3.1ポイント
ケケーニ保健・社会・家族相：	2、	2、	3、	3/4、	2.6ポイント
ネーメト農業・地方開発相：	2、	3、	3、	3、	2.8ポイント
チラグ経済・運輸相：	3、	2、	3/4、	3、	2.9ポイント
ユハース国防相：	3、	2、	2/3、	3、	2.6ポイント
バーラント司法相：	4、	3、	4/5、	5、	4.1ポイント
ジュルチャーニ児童青年スポーツ相：	4、	3、	4、	3、	3.5ポイント
ペルシャーニ環境相：	4、	3、	3/4、	4、	3.6ポイント
ヒレル文化遺産相：	4、	4、	4/5、	4、	4.1ポイント
マジャール教育相：	4、	2、	4/5、	3/4、	3.5ポイント
ドラシュコヴィッチ財務相：	4、	4、	5、	4/5、	4.4ポイント
ブラーニ雇用・労働相：	3、	3、	4、	3、	3.3ポイント
コヴァーチ情報通信相：	3、	3、	3/4、	3、	3.1ポイント
ユハースEU統合担当無任所相：	4、	4、	4、	3/4、	3.9ポイント
レーヴァイ機会均等担当無任所相：	4、	2、	4、	3/4、	3.4ポイント

(3) 26日付各紙

25日、自由民主連盟(第2与党。SZDSZ)が同党に近い評論家の意見も踏まえ、メッジェシ政権任期前半の業績評価を行った。クンツェSZDSZ党首はプレスに対し「メッジェシ政権は体制転換後の歴代政権の中で最もリベラル政策を実施した内閣である。現政権施政下でハンガリー経済は好転し、また環境、教育および情報政策においてそれぞれ成果が得られた」旨述べた。

(4) シュトゥンプ・世紀末(タールキ)政治分析センター社会長

21日、シュトゥンプ・世紀末(タールキ)政治分析センター社会長による、メッジェシ政権2年目の業績評価の記者ブリーフが行われた。本件評価は「質入れ、抵当

入りされた未来」と題する同社報告書にまとめられている。(注：同社は当国4大世論調査機関の一つで傾向は中立的。シュトゥンプ会長はオルバーン前青年民主連盟〔F I D E S Z。現在第1野党〕政権下で首相府相を務めたが、現在はF I D E S Zと一定の距離を置いている。)

(イ) 1年前、メジエシ政権発足後1年目の業績評価として、世論支持獲得には成功したが高い代償を支払う必要がある旨述べたが、その通りになった。以前にも増して、連立与党内でも、また与野党間でも衝突が増大した。またハンガリーはいまや中東欧諸国の中でも競争力に欠ける停滞国となってしまった。

(ロ) 大きな問題はハンガリー経済政策が国内でも、対外的にも信用を喪失してしまったことである。2003年夏の時点で予算不足は明白、深刻なものとなり、同年6月、12月にはフォリント為替相場が急落、危機的になり、結局財務相交替に至った。それに関わらず、現政権は具体的な経済政策を打たず、唯一2つの決定を行っただけである。1つはユーロ導入時期を遅らせることを決定したことであり、2006年のユーロ導入は先送りされた。もう1つは年金の追加支給を決めたことであり、欧州議会議員選挙の直前のタイミングで第13ヶ月分(1年分に追加支給される部分)の年金支給が決められたが、これが選挙対策であることは明白である。

(ハ) メジエシ政権の掲げた3つの改革について、行政改革は完全に失敗し、医療改革は論争中であり、また国防軍改革にも抵抗が生じている状況である。

(ニ) 現政権下で生じた衝突として、金融監督庁長官、国立銀行総裁及び検察庁長官に対する政府与党の圧力、地方自治体財源不足による中央政府との軋轢、病院法案及び民営化問題に揺れる医療衛生部門、政府公約が実施されていない農業分野、税負担が増加してしまった経営者対策、並びに若年世帯の住宅取得をより困難にした住宅政策があげられる。

(ホ) メジエシ政権は清廉潔白、透明性を謳い、民営化、「グラス・ポケット」政策を掲げた。他方、実際には病院法案をめぐる大統領による差し戻し、政府ハイレベルでの腐敗、汚職の露呈、K & Hエクイティーズ社スキャンダル、及びM5高速道路建設・民営化問題の不手際のように、問題が噴出した。中でもK & Hスキャンダルは最大の問題点であり、本件国会調査委員会は政府与党の対応により機能不全に陥った。

(ヘ) 政府与党党内でも、社会党(第1与党。MSZP)と自由民主連盟(第2与党。SZDSZ)の連立与党間で減税問題、行政改革等を巡って衝突が発生した。また社会党党内で、社会問題への対応を巡る衝突が発生した。2003年8月、ラースロー財務相(当時)は全ての社会問題に対応出来るだけの十分な予算がないことを踏まえた措置をとろうとしたが社会党から猛反発を受け、また2004年1月にはフォリント為替危機と住宅支援制度の崩壊により、社会党内での混乱が生じた。

(ト) 世論調査における社会党の支持率は2003年5月の40%から2004年4月には24%に下落し、他方F I D E S Zの支持率は2003年5月の27%から2004年4月には33%に上昇した。「わからない。未回答」の割合が2003年5月の26%から2004年4月には37%に上昇したことも現政権の政策が不十分であることを裏付けるものである。2004年1月、政府業績への支持が急落し、その後若干の改善はあるがもはやそれ以前の水準の支持は得られていない。また、

2003年秋から12月にかけて、オルバーンFIDESZ党首・前首相の支持率が上昇、メッジェシ首相を上回り、現在オルバーンは当国人気政治家の一角を占めている。

(チ)メッジェシ施政下で施政の中心点、力点を握るのは財務相という構図になった。また政治提案を世論に直接公表することで政治力学を計算していくスタイルが定番化してしまった。また首相の行動が大統領の意向に抵触するケースが度々生じた。

(リ)総括として、各種政治的衝突の発生、競争力の喪失、労働力再構築を伴う民営化(医療、教育部門)及びEU加盟に伴う諸問題への行政対応が今後の政府の取り組むべき課題である。本年が政府にとって成功した年になるとは言い難く、政府には成功のための根拠が欠如している。当国EU加盟も穏便な雰囲気の中でなされたとは言い難く、加盟当日、政治家は各地で政治キャンペーンを行っていた。

(ヌ)(質疑応答において、メッジェシ政権2年目の業績の肯定的な成果はありやとの質問に対し)

工業生産、経済成長等、マクロ経済指標の一部が2003年秋以降上向いているのは事実である。他方、現政権の政策方針はこれら要素を踏まえた上でも批判されて然るべきものである。

現政権業績としてハンガリー・ロシア関係が緊密化し、対ロシア輸出は40%増加した。他方、これはハンガリーがロシア市場を獲得したことを意味してはいない。

3. ハンガリー欧州議会議員選挙

(1) 登録政党

14日、国家選挙管理委員会は、当国欧州議会議員選挙に立候補する政党の候補者リストの届出を締め切り、審査を行った結果、17日、最終的に8政党の届出が承認された。共同リストを提出したハンガリー地方市民党及び緑の党は、手続上違反があったため、登録を拒否された。承認された政党は以下の通り。～は国会4政党。

(政党名・略称等、数字は各政党のリストに掲載された候補者数)

ハンガリー社会党(MSZP、第1与党) 72名

青年民主連盟・ハンガリー市民連盟(FIDESZ、第1野党) 72名

自由民主連盟(SZDSZ、第2与党) 24名

ハンガリー民主フォーラム(MDF、第2野党) 66名

ハンガリー正義生命党(MIEP、極右) 23名

労働者党(MUNKASPART) 24名

社会民主党(SZDP) 21名

ハンガリー国民連盟(MNSZ) 21名

(2) 在外投票

(イ)17日、リトゥコ国家選挙事務所(当国選挙実施機関)所長は、「海外在住の2,415名のハンガリー国民が、当国欧州議会選挙の際に在外での投票を希望してい

ることから、6月13日（選挙実施日）には、世界71ヶ国にある在外公館に投票所が設置される。」と述べた。ベルギー、英国、仏の公館では、それぞれ投票者が200名を超える見込みであるが、キューバ、ナイジェリア、モンゴルは、在留ハンガリー人有権者が1名のみ。開票作業を行う4名の選挙委員は、71ヶ国すべての公館に設置され、在外選挙委員設置にかかる経費は総額で3億フォリントとなる。

（ロ）本件に関する国会4政党協議が行われ、24日、4政党合意に基づく選挙法改正案が国会で採択された（FIDESZ国会議員は本件採択を棄権）。同改正の結果、本件在外選挙投票地への当国からの選挙人派遣はなされず、各国所在のハンガリー大使館館員が選挙人となり、本件投票封筒は各大使館から本国に送付された後、各党推薦の選挙人立ち会いの下で開票作業が行われることになった。

4. 世論調査

（1）20日付マジャール・ヒールラップ紙（第2与党自由民主連盟、SZDSZ寄り）

当国欧州議会議員選挙についての支持政党、選挙に関するメディアーン社（第2与党SZDSZ寄り）の5月の世論調査結果（5月7 - 10日、成人国民1200名対象）

（a）4月の質問者全員の回答

（b）5月の質問者全員の回答

（c）4月の、確実に投票すると回答した者で投票権を有する者の回答

（d）5月の、確実に投票すると回答した者で投票権を有する者の回答

[] 内は欧州議会での獲得議席数。

	(a)	(b)	(c)	(d)
青年民主連盟(FIDESZ) :	37 %	34 %	56 %	51 % [13 議席]
社会党(MSZP) :	23 %	26 %	36 %	38 % [10 議席]
自由民主連盟(SZDSZ) :	2 %	5 %	4 %	7 % [1 議席]
ハンガリー民主フォーラム(MDF) :	1 %	2 %	2 %	3 %
その他の政党 :	3 %	1 %	2 %	1 %
支持政党なし :	34 %	32 %	-	-

（2）21日付ネーブサバッチャーグ紙（第1与党社会党寄り）

ソンド・イプソス社（第1与党社会党寄り）による支持政党・選挙についての5月の世論調査（5月7 - 17日データ収集。18歳以上の国民1500名に照会）

（a）支持政党の変遷（投票に行くと回答し、いずれかの政党を選択した者の支持政党）

（与党）

社会党(MSZP)	: 3月	36 %	4月	37 %	5月	39 %
自由民主連盟(SZDSZ)	: 3月	4 %	4月	5 %	5月	6 %

（野党）

青年民主連盟(FIDESZ)	: 3月	53 %	4月	53 %	5月	49 %
ハンガリー民主フォーラム(MDF)	: 3月	2 %	4月	1 %	5月	3 %

（非国会政党）

ハンガリー正義・生活党(MIEP)	: 3月	2 %	4月	1 %	5月	2 %
-------------------	------	-----	----	-----	----	-----

中央党 (C E N T R U M)	: 3 月	1 %	4 月	0、	5 月	1 %
その他の政党	: 3 月	3 %	4 月	2 %	5 月	2 %

(b) 質問事項：仮に今週日曜に総選挙があるとすればどの党に投票するか。(質問者全員の回答)

(与党)

社会党 (M S Z P)	: 2 6 %
自由民主連盟 (S Z D S Z)	: 4 %

(野党)

青年民主連盟 (F I D E S Z)	: 3 1 %
ハンガリー民主フォーラム (M D F)	: 3 %

(非国会政党)

ハンガリー正義・生活党 (M I E P)	: 1 %
その他の政党	: 2 %

(その他)

わからない、投票しない	: 3 1 %
-------------	---------

(3) 2 2 日付マジャールネムゼト紙 (第 1 野党青年民主連盟・ F I D E S Z 寄り)
ギャラップ社 (第 1 野党 F I D E S Z 寄り) による支持政党・選挙についての 5 月
の世論調査結果。

(a) 当国欧州議会議員選挙に確実に投票に行くと回答した者 : 4 3 %

(b) 当国欧州議会議員選挙についての質問対象者全員の支持政党

青年民主連盟 (F I D E S Z)	: 3 1 %
社会党 (M S Z P)	: 2 3 %
自由民主連盟 (S Z D S Z)	: 5 %
ハンガリー民主フォーラム (M D F)	: 3 %

(c) 当国総選挙についての質問対象者全員の支持政党

青年民主連盟 (F I D E S Z)	: 3 2 %
社会党 (M S Z P)	: 2 2 %
自由民主連盟 (S Z D S Z)	: 4 %
ハンガリー民主フォーラム (M D F)	: 2 %

(d) 当国欧州議会議員選挙について、投票に行くと回答し、いずれかの政党を選択した者の支持政党 (括弧内は獲得予想議席数)

青年民主連盟 (F I D E S Z)	: 4 7 % (1 2 議席)
社会党 (M S Z P)	: 4 1 % (1 1 議席)
自由民主連盟 (S Z D S Z)	: 7 % (1 議席)
ハンガリー民主フォーラム (M D F)	: 3 %

(e) 当国総選挙について、投票に行くと回答し、いずれかの政党を選択した者の支持政党

青年民主連盟 (F I D E S Z)	: 5 2 %
社会党 (M S Z P)	: 3 5 %
自由民主連盟 (S Z D S Z)	: 6 %

ハンガリー民主フォーラム (MDF): 3%

(4) 27日付ネーブサバツチャーグ紙(第1与党社会党寄り)

当国欧州議会議員選挙の支持政党・選挙についてのマーケティング・ツェントルム社の5月の世論調査(5月12 - 16日、全国100カ所で無作為に1000名に質問)

【要旨】投票率が50%を越える場合、13:11の割合で野党側が勝利。投票率が低く、40%を切る場合、与野党は12:12で引き分け。SZDSZは2議席を得る可能性があり、MDFも議席を得る可能性がある。

(投票率が40%を切る場合)(投票率が50%超の場合)(獲得議席数)

青年民主連盟(FIDESZ)	: 44%、	47%	(12議席)
社会党(MSZP)	: 37%、	33%	(9議席)
自由民主連盟(SZDSZ)	: 9%、	9%	(2議席)
ハンガリー民主フォーラム(MDF):	6%、	6%	(2議席)
その他の政党	: 4%、	5%	

(5) 6月1日付ネーブサバツチャーグ紙(第1与党社会党寄り)

ソンド・イプソス社(社会党寄り)の当国政治家好感度、知名度についての5月の世論調査(5月8日 - 17日、18才以上の市民1500名対象)

(好感度、知名度の順。括弧内は先月比。)

(1) ダーヴィド・MDF党首:	62%(+1) \ 92%
(2) マードル大統領:	61%(+1) \ 91%
(3) パーランディ司法相:	55%(0) \ 77%
(4) シリ国会議長:	53%(+1) \ 86%
(5) レーヴァイ機会均等担当無任所相:	52%(+1) \ 75%
(6) オルバーンFIDESZ党首・前首相:	52%(-1) \ 96%
(7) メッジェシ首相:	51%(+2) \ 95%
(8) ペルシャーニ環境相:	51%(+5) \ 51%
(9) ラムペルト内相:	50%(0) \ 85%
(10) クンツェ自由民主連盟党首:	50%(+1) \ 92%
(11) ヒレル文化遺産相:	50%(+2) \ 54%
(12) コヴァーチ情報通信相:	48%(+1) \ 54%
(13) ヘレーニMDF議員団長:	48%(+2) \ 55%
(14) レンドヴァイ社会党国会議員団長:	47%(-1) \ 82%
(15) デムスキ・ブダペスト市長:	46%(-3) \ 91%
(16) キシュ首相府担当相:	46%(+3) \ 53%
(17) コヴァーチ外相・社会党党首:	45%(-1) \ 88%
(18) ジュルチャーニ児童青年スポーツ相:	44%(+2) \ 75%
(19) チッラグ経済・運輸相:	44%(+2) \ 62%
(20) ブラーニ雇用・労働相:	43%(+3) \ 53%
(21) ネーメト農業・地方開発相:	41%(+2) \ 62%
(22) ドラシュコヴィツ財務相:	40%(+1) \ 74%
(23) アーデルFIDESZ国会議員団長:	40%(0) \ 85%

(24) ケーヴェール F I D E S Z 全国評議会議長： 34 % (0) 81 %

(紙面の都合上、同記事顔写真掲載の24名に入っていない政治家)

マジャール教育相： 46 % (支持率)

ユハース国防相： 43 % (支持率)

ケケーニ保健・社会・家族相： 40 % (支持率)

ユハース E U 統合担当無任所相： 46 % (支持率)

． 外 交

1 . E U 関係

(1) 1 日、ハンガリーは他の 9 カ国と共に E U に正式加盟した。ハンガリー国内各地で加盟祝賀行事・式典が行われた他、E U 議長国であるアイルランドの首都ダブリンでも記念式典が行われ、当国からはメッジェシ首相が出席した(詳細は月報 2 0 0 4 年 4 月参照)。今次拡大では、バルト 3 国(エストニア、ラトビア、リトアニア)、中欧 5 カ国(ハンガリー、ポーランド、チェコ、スロバキア、スロベニア)、地中海 2 カ国(マルタ、キプロス)の計 1 0 カ国が E U に正式加盟した。

(2) 5 日、マードル大統領はドイツ・シュツットガルトを訪問し、「European week」記念行事(5月9日は欧州の日)に出席、ゲストスピーカーとして基調講演を行った。

(3) 1 0 日、メッジェシ首相はブリュッセルを訪問し、E U 経済フォーラムに出席。

(4) 1 3 日、ラスムセン欧州議会欧州社会党(P E S) 党首(デンマーク元首相)はハンガリーを訪問し、メッジェシ首相及びコヴァーチ外相・社会党党首と会談。

(5) 1 7 - 1 8 日、E U 総務対外関係理事会及び政府間会議(I G C) 閣僚会合がブリュッセルで行われ、当国からはコヴァーチ外相が出席。

(6) 2 4 日、I G C 閣僚会合がブリュッセルで行われ、当国からはコヴァーチ外相が出席。

(7) 2 8 日、第 3 回 E U ・ L A C (ラテンアメリカ・カリブ諸国) サミットがメキシコで行われ、当国からメッジェシ首相が出席し、基調講演を行った。

2 . イラク復興支援

(1) 1 7 日、国防省はイラク・ヒッラーに駐留しているハンガリー輸送部隊の交代要員 8 3 名が同基地に無事到着した旨発表した。83名の交代要員は、イラクでの派遣期間を延長していたハンガリー兵と交代する。ハンガリー輸送部隊 3 0 0 名のうち、2 月に派遣期間を終えた約 2 0 0 名はすでに交代しハンガリーに帰還しており、派遣期間を 3 ヶ月延長した約 8 0 名は、今回派遣期間を終了し、3 0 日にタサール基地(当国南西部)に到着した。

(2) 20日、コヴァーチ外相は、国連事務総長及び国連安保理宛に書簡を送り、イラクにおける主権の委譲を国連が監督するよう提案した。また、コヴァーチ外相は、パウエル米 국무長官にも、イラクでの捕虜虐待と、これに関する調査についての情報を求める書簡を送った。

3 . 地域協力

(1) 12日、メッジェシ首相は、チェコ・Kromerizで行われたヴィシェグラード4カ国首相会議に出席した。同会議には、メッジェシ首相の他にベルカ・ポーランド首相、シュピドラ・チェコ首相及びリンダ・スロバキア首相が出席し、今後もV4協力を継続していく旨の共同コミュニケが採択された。

(2) 20 - 21日、シオーフォクにてヴィシェグラード4ヶ国環境大臣会合が開催され、当国からはペルシャーニ環境相が出席した(. 経済、6 . 参照)。

(3) 27 - 28日、ルーマニア・ママイア(黒海沿岸のリゾート地)にて、第11回中欧首脳会合が開催され、当国からはマードル大統領が出席した。同会合は、1993年にザルツブルクで行われたオーストリア、独、チェコ及びハンガリーの大統領会合が始まりで、今次会合では、中欧17ヶ国の大統領が集まり、EU拡大の評価、西バルカン情勢、中欧・南東欧地域のビジネス環境及び投資について議論された。

4 . 二国間関係(要人往来等)

- 4日：ハンガリー外務省は、対北朝鮮支援(4月22日に竜川で起きた列車爆発事故への災害支援)のために、1千万フォリントの供与を決定した。北朝鮮当局の要請により、ハンガリーからの支援は主に、薬剤、医療器具及び食糧となる。

- 4 - 6日：ゲルジコフ・ブルガリア議会議長、当国訪問。シリ国会議長及びキシュ首相府相と会談。

- 6 - 10日：シリ国会議長、ノルウェー訪問。6日はSardiノルウェー議会外交委員長及びKosmoノルウェー議会議長と会談。

- 11 - 12日：シリ国会議長、アイスランド訪問。

- 13日：フォックス・メキシコ大統領、当国訪問。マードル大統領及びメッジェシ首相と会談。

- 18 - 19日：シュトイバー・バイエルン州知事、当国訪問。マードル大統領、メッジェシ首相、コヴァーチ外相他と会談。

- 19日、アハーン・アイルランド首相、当国訪問。メッジェシ首相と会談。

- 19 - 22日、ルオン・ベトナム国家主席、当国訪問。マードル大統領、メッジェシ首相、シリ国会議長と会談。

5. ハンガリー系少数民族関連

20 - 23日、第3回欧州ユダヤ理事会がブダペストで開催され、欧州諸国、イスラエル、米国及び南アフリカを含む45ヶ国から約千名のユダヤ人指導者が集まった。開会にはメツジェシ首相、閉会にはコヴァーチ外相が出席した。

経 済

1. ユーロ参加時期

(1) 財務相発表

10日、財務省はハンガリーのユーロ参加目標を2010年とすることを内閣に提案していたが、13日、ドラシュコヴィッチ財務相は次の通り発表した。

(イ) 新たなユーロ参加目標について、急ぐよりも安定した通貨の導入のため、2010年1月1日とする。

(ロ) 2008年までにユーロ導入に必要な条件を満たす。同年までの目標として、政府債務残高のGDP比を54.8%、財政赤字のGDP比を2.7%、インフレ率を3%とする。また、購買力平価でみた一人当たりGDPは、現在はEU平均値の54%であるが、2008年までには同58~60%となる。

(ハ) ERM-2加盟時期については、現在はまだ議論する時期ではない。現在の目標は2004年の目標達成であり、2005年予算案作成である。

(2) 中銀のコメント

ヤーライ中銀総裁は、今回新たに決定されたユーロ参加目標を支持すると述べた。また中央銀行は、早期のユーロ参加によって年間の経済成長は0.6~0.9%増が見込まれるのに対し、強制的な財政赤字削減とインフレ率抑制は経済成長を阻害することとなる旨の声明を発表した。

(3) アナリストらの反応

(イ) ロンドンのメリルリンチRalph Sueppel氏(チーフ・エマージング・マーケット・ストラテジスト): 新たなターゲットは実現可能な目標であり、マーケットと政策から過剰なプレッシャーを取り除くであろう。(2006年の選挙年が経済収斂のプロセスに与える悪影響について) 経済収斂は持続的な財政赤字の削減とインフレ率抑制である。仮に現政権が財政赤字のGDP比を3%にすると計画しても、それは、更に長期に及ぶ継続的な計画でなければならず、結局は次政権においても対策をとらねばならないことに変わりはない。(ERM-2加盟時期について) 殆どの新規加盟国はERM-2への早期加盟は好ましくないとしているが、それはもっともなことである。なぜならERM-2は外国為替のフレキシビリティを排除する制度であり、2010年にユーロに参加するのであれば、2007年中盤以前にERM-2に加盟する必要はない。

(ロ) ING銀行アナリスト、バルツァ・ジョルジ氏: 2005~08年までの計画

は現実的かつマーケットの意向に沿ったものである。近隣諸国のチェコ、ポーランド、スロバキアもユーロ参加目標の発表には慎重である。チェコの財政赤字とポーランドの相当程度の政治的不安定と比較し、ハンガリーはベストのスタート地点にいる。

(ハ) 外国企業と取引のあるハンガリー企業筋：為替リスクが今後企業にとっての最大の問題の一つになるう。

2. 基準金利引き下げ

(1) 3日、中銀金融協議会は、5月4日付けで基準金利を0.5%引き下げ11.50%とする旨発表した。引き下げの背景として、同協議会は、過去数ヶ月間においてハンガリー経済に対するリスク評価が低下し、以前からの高い金利を下げることで余剰が発生したためとしている。今回の利下げは今年に入り、3月23日、4月6日に続き三度目の利下げとなる。中銀はフォリント安に対処するため、昨年11月28日に基準金利を3.0%引き上げ12.5%としていた。

(2) アナリストらの反応

(イ) GKI 経済研究所カルシャイ・ガーボル所長：ハンガリーに対する信用はゆっくりであるが回復しつつあり、基準金利引き下げは必至で、今後更なる利下げの余地がある。

(ロ) ライファイズン銀行アナリスト、トゥルク・ゾルターン氏：中銀は将来、フォリント高によって突然に大きな利下げを強いられるのを避けるために早めに対処している。

(ハ) アメリカ銀行アナリスト、Callum Henderson氏：今回の利下げは、経済の傾向を受けたものでもなければ、最近のインフレ率や財政赤字及び経常収支改善に基づいたものでもなく、単に市場の動向により判断された利下げである。

(ニ) ING 銀行アナリスト、バルツァ・ジョルジ氏：利下げの決定を裏打ちするマクロ経済の更なる改善が発表された訳でもなく、今回の利下げは時期尚早。これは恐らく2週間前に利下げの適切な時期を見誤ったことを補正するためではないか。

(ホ) ハンガリー銀行協会エルデイ・タマーシュ会長：今回の利下げは必要であり、かつ良いタイミングである。

3. ロイターのアナリスト調査

(1) 24日発表された、ロイターがアナリストらを対象に行った調査(5月19日及び21日実施)によれば、今般、EUに提出した中期コンバージェンス・レポートで計画されている目標の達成のためハンガリー経済の順調な成長を維持するには、更なる財政支出の削減が必要となる。アナリストらの予測では、最初の2年については、ハンガリーはコンバージェンス・プログラムの財政目標とインフレ目標をオーバーシュートするとされている。

(2) 政府の2004年の財政赤字目標はGDP比4.6%、2005年は4.1%であるのに対し、アナリストの予測の中間値では、それぞれ4.9%、4.4%となっている。アナリストらは、GDP比4.6%の財政赤字目標を達成するため、年初

に実施された１４００億フォリントの予算削減に加えて、更に１０００～１５００億フォリントの財政支出削減が必要であるとしている。政府は更なる支出削減の必要はないとしている。

（３）経常収支赤字予測については、２００４年は３億３千万ユーロ増加し６５億ユーロ、２００５年は２億５千万ユーロの増加で６１億５千万ユーロとしている。

（４）２００５年のインフレ率について、アナリストらの予測の中間値は０．２％下方修正され４．２％となっており、これは、中銀目標である４％、また直近の中銀のインフレ・レポートの予測を上回る。２００４年末のインフレ予測中間値は６．０％で、中央銀行予測と合致している。アナリストらは、物価指数は４月が６．９％、５月は７．２％で、その後は下降すると予測している。アナリストらは中銀が２００４年末までに基準金利を２％引き下げると予測し、その内の０．２５％の引き下げは今後４週間に行われると予測している。

（５）アナリストらは、フォリントは最近のレベルの１ユーロ＝２５３フォリントあたりで定着すると予測している。今回の調査では、アナリストの予測する為替レートのカーブは今後の１７ヶ月間はほとんどフラットであり、６月末の予測レートは１ユーロ＝２５２．５０フォリントで、２００４年末と２００５年末の予測レートは１ユーロ＝２５３フォリントとなっている。

（６）１０年満期の国債の利回りは、外国人投資家の低い需要による最近の利回り上昇を経た後、８．４７％から、６月末には８．０％に下がるとみられている。

４．E B R Dの投資計画

（１）E B R Dは新規E U加盟国のそれぞれに対し、今後５年間で総額１０億ユーロの投資を計画しており、この計画では大規模プロジェクトよりも中小企業や金融分野、官民共同事業分野に焦点が当てられている。

（２）１７日、ブダペストを訪問したルミエールE B R D新総裁は右を発表するにあたり、政府プロジェクトは欧州投資銀行からの融資を受けることができるため、E B R Dは政府プロジェクトへの融資は行わず、その代わりに地方自治体プロジェクトへの融資を行うと述べた。

５．食品加工施設の操業許可リスト

（１）農業・地域開発省食品調査機関は、５月１日よりE U加盟国に向けた加工製品の輸出が認められる企業リスト（５４２社）を作成した。

（イ）３０の牛・豚肉(red meat)加工施設、２０の乳業メーカーは「ランク外」(under derogation)に分類されており、国内市場のみ販売が認められている。尚、食肉会社については２００６年末まで、乳業メーカーについては２００５年４月末まで、施設の生産能力を上限に製造可能である。

（ロ）２５０の牛・豚肉加工会社、５０の食鳥加工場（主に小規模の施設）は「承認」(approved)に分類されており、ハンガリーで生産割当に応じた製品を販売する権利を与えられる。

（２）農業・地域開発省によると、昨年の半ばには約１０００の加工施設が存在した

が、約 300 は操業基準を満たせなかったり、操業継続を望まなかったため、操業を中止した。

6. ヴィシェグラード 4 国環境大臣会合

(1) 20 - 21 日、シオーフォクにおいて V 4 環境大臣会合が行われ、E U 内における V 4 諸国の環境分野での協力、環境開発プロジェクトへの E U の支援につき意見交換が行われた。

(2) また、捕鯨に反対するグリーンピースの活動家達が会場を訪れ、会合の合間にペルシャーニ環境・水利大臣と会い、できる限り速やかに V 4 各国が I W C に加盟し、現在、絶滅しようとしている鯨を保護する立場を取ることを要請した。同大臣は彼らに対し、I W C 加盟に関する決定を内閣が行ったと語った。

7. ハンガリー・ロシア銀行家会合

26 日、ハンガリーとロシアの関係強化のための両国の銀行家による会合がブダペストで開催された。

(1) 同会合でメツジェシ首相は、(イ)ロシアからの戦略的投資を歓迎するが、ハンガリーの投資家にも同様の待遇が与えられることを期待、(ロ)ハンガリーの銀行はロシア経済の発展を喜んで支援する旨述べた。

(2) チッラグ経済運輸大臣は、ハンガリーの対ロシア輸出は昨年 6 億 5070 万ドルに上り、30%以上の増加であり、今年は最低でも昨年の増加率と同等の伸びを目標にしていることに関連し、次の通り述べた。

(イ)ハンガリーの対ロシア輸出が今後も順調に増加すれば、その金融関係も強化されなければならない。

(ロ)輸出は主に機械製品、自動車部品、電気製品が好調であるが、今後はトローリーバスの発注も見込まれている。また、ロシアでは農作物に対する需要が増加する見込みであるものの、これに関しては質と量について問題がある。

(ハ)商業銀行がさらに参画できるようにするべきで、Eximbank (ハンガリー輸出入銀行)の役割強化は二国間貿易の資金調達面における問題解決策の 1 つでしかない。

(ニ)政府は、金融ネットワークを構築する計画や、二国間の金融関係の改善、ハンガリーとウクライナの国境にあるザーホニ(地名)のような貿易・流通ジャンクションの発展を支援する。

(3)ハンガリーとロシアの中央銀行総裁は過去 13 年で初めて面会し、経済・金融政策のため今後協力しあっていくことで合意した。

(本資料は当該月間のハンガリー紙等の報道をベースにとりまとめたものです。)